

ユニリーバ・ジャパン 相模原工場

日用品メーカーの英ユニリーバは、2030年までに事業活動でのカーボンニュートラル（温室効果ガス（GHG）排出量実質ゼロ）を掲げる。日本人のユニリーバ・ジャパン（東京都目黒区）はこれを踏まえ、国内の全事業所でグリーン電力証書などを利用して100%再生可能エネルギーを実現するなど計画達成に取り組む。相模原工場（相模原市南区）では23年11月に温水・冷水を同時に

モノづくり現場

生産革新・脱炭素社会への挑戦

⑧

90℃対応 温冷ヒートポンプ



熱回収、エネ費用7%削減

1、コンディショナー、水を、冷却時に冷水をボイラーソープなどを使用している。工場製造する。生産工程で原料を溶かすために温エネルギー削減目標を達成するための方法を検討する中で、冷温同時に取り出し可能なヒートポンプが製造工程に適すると分かり導コンパクトなヒートポンプを採用し、必要最低限のレイアウト変更で導入ができたという

入を決めた。導入したのは前川製作所（東京都江東区）の温水と冷水を同時供給するヒートポンプ「ユニモWW-2台。石川順一相模原工場プラントエンジニアリングスーパーバイザーは、同社製のヒートポンプを選んだ理由について「装置の大きさと当工場が必要とする能力、コストが適していた」と話す。これまででは冷水側でチラーにて約13度Cの水を6度Cに冷やした際に奪った熱を大気に排出していたが、ヒートポンプの導入により奪った熱を回収。温水側で約15度Cの水を最高90度Cまで加温している。今まで昇温に使用していたボイラーに供給する都市ガスが削減でき、使用量が導入前に比べ約17%減った。ま

たチラーの稼働時間も減少。都市ガスと電気料金を合わせてコストを約7%削減できた。エネルギーのコストが上がっていることも導入の決め手だったという。数カ月稼働した効果は「想定以上で大きなトラブルもなかった」（石川氏）。同工

【事業所概要】▽所在地 神奈川県相模原市南区大野台2の14の1、042・861・8900▽主要生産品目 シャンプー、コンディショナー、ボディーソープ▽年間CO₂排出量 非公表